

こんにちは 日本共産党長野県議団です。



残暑お見舞い申し上げます

四月の県議選で七名となって初の定例県議会は、公約実現のため六名が一般質問を行い、浅川ダム関連予算案削除の提案や県民要望実現のための意見書の採択など、全員で力を合わせてがんばりました。
これからも、ますます全力投球でがんばります。

県議の海外視察 今年度も凍結に

一部会派から復活を求める声がありましたが、今年度は引き続き「凍結」となりました。日本共産党議員団は、観光目的の海外視察の復活に反対です。

政務調査費公開度全国トップ

日本共産党の県議がふえたことが議会改革前進の力になっています。視察の際のグリーン車使用の廃止、政務調査費からの飲食代支出の禁止（共産党はいずれも未利用）をめざします。



「非核日本宣言」求める 県議会で初 意見書を可決

7月9日の県議会本会議で「非核日本宣言を求める意見書」を可決しました。「非核の政府を求める長野県の会」が陳情として提出し、石坂ちは県議が総務委員会で積極的に働きかけて実現しました。

意見書は「核兵器廃絶の提唱・促進と非核三原則の厳守」を非核宣言として内外に宣言するとともに、各国に対して核兵器のない世界の実現のために積極的に働きかけるよう強く求める」としています。



風力発電も 環境アセス条例の対象に

総出力1万kW以上の風力発電建設計画が、県環境影響評価（アセスメント）条例の対象に加えられることになりました。また、「風力発電の建設に関するガイドライン」も10月1日から施行されます。（対象は、出力50kW以上、ハブの高さが25m以上又は風車の直径が15m以上の風力発電施設）

日本共産党県議団では6月14日、伊那の鹿嶺高原風力発電計画の現地を視察後、伊那市の小坂市長と市役所で懇談。市長からは「このような計画には党派を超えて一致して反対してほしい」旨の要請があり、協力を約束しました。



伊那市長と風力発電計画で懇談

日赤上山田病院 について懇談

医師不足や赤字のために閉院が検討されている上山田病院について、6月25日長野日赤の事務部長と懇談し、存続について要請しました。

日赤は独立採算制のため上山田病院の赤字解消は長野日赤が対応せざるを得ないこと、医師の確保が非常に難しいことなどをお聞きし、相次ぐ国の医療政策改悪への怒りを強くしました。

懇談後、このほど敷地内に開設された、病後児保育施設を見学しました。



長野日赤病後児保育施設を訪問

日本共産党県議会報告

No. 3 2007年8月

ご意見・ご要望をお寄せください。

発行/日本共産党長野県議団 〒380-8570 長野市南長野幅下692-2 長野県議会日本共産党控室
☎ 026-237-6266 (直通) FAX 026-237-6322
ホームページ <http://www.avis.ne.jp/~up/> E-mail jcpngnkd@avis.ne.jp

県民の願い実現に全力

6月県議会特集

日本共産党県議団

ウイルス性肝炎患者への 助成などは評価

今回の補正予算には、昨年10月に補助を「原則入院のみ」に限定したことを見直し、高額なインターフェロン投与の患者の一部に通院費補助（約6000万円）が盛り込まれました。

日本共産党県議団は、村井知事就任時の昨年9月1日には緊急要望として、高齢者や低所得者への通院補助の継続を訴えてきましたので、この事業は評価します。



「6・2浅川にダムはいらない県民集会」
(6月2日・長野市民会館)

浅川ダム関連予算案の 削除を求める動議を提案

日本共産党県議団は、2007年度一般会計6月補正予算案に対して、危険でムダな浅川ダムの概略設計・模型実験等の予算、1億7600万円を修正削除する動議を提案しました。ダム建設の賛否を超えて住民が要望している内水被害緩和のための遊水地の設置を先送りしたまま、住民合意のないダム建設を急ぐこのような予算計上は認められないとして提案。共産党県議団7名を始め11名が賛成しましたが否決されました。



補正予算修正動議を服部議長（右）に提出する石坂団長（右から2人目）

前進・充実がはかられた内容をご紹介します。

訪問介護の生活援助改善へ

訪問介護の家事援助について、同居家族がいるという理由でサービスが一律に打ち切られている実態を紹介。「利用者と家族にとって本当に必要な家事援助は提供されるとする介護保険法の趣旨を逸脱するのでは」と質問。藤巻社会部長は「一律に規制はされない。ていねいで血の通ったサービスが提供できるようにしたい」と答弁し、実態調査を約束しました。

地域子育て支援センター、 病後児保育の充実

地域子育て支援センターについて「市町村が主体だが県が補助を出して支援している。施設確保などへの支援充実を」又、「病後時保育についての支援策の拡充を」と質問し、山口教育長は「市町村への支援をして参りたい」と答弁しました。

質問に先立ち日本共産党県議団は、長野赤十字病院に6月に開設された病後児保育施設を見学し、事務部長及び現場のスタッフと懇談しました。

助産師支援検討会が具体化

安心なお産が望めなくなっていることから、上田市産院が助産師を増やして、より安全なお産に努めていることを紹介し、更に助産師の開業支援で長野県が全国の先進になるよう提案。

渡辺衛生部長は「7月から新たに助産師支援検討会を設置して対応する」と答弁し、具体化が進みました。

アスベスト患者 健診病院の増加を

アスベスト対策について「県内の手帳交付者は約100名いるが、無料の健診を受けられる指定医療機関が3ヶ所しかなく、有料で身近な病院に通院している人がいる。指定病院の増加を国に働きかけるべき」と提案。村井知事は「受けやすい体制を整えるのは大事。増加を国に働きかける」と答弁しました。

日本共産党長野県議団

石坂ちほ
(長野市)



小林伸陽
(上伊那)



藤沢のり子
(松本市)



高村京子
(上田市)



びぜん光正
(塩尻市)



もうり栄子
(岡谷市・下諏訪町)



和田あき子
(長野市)

